

令和6年度 第5回崇化館地域会議 会議録

■日 時 令和6年9月17日（火）午後6時30分～午後8時00分

■場 所 崇化館交流館 4階 第2会議室

■出席者 <委 員> 板倉 しをり 伊藤 貴史 稲本 泰孝 井上 眞一
太田 眞由美 木村 友浩 柘植 伸夫 戸田 博基
永井 靖美 服部 啓二 林本 基 藤井 康博
藤村 匡泰 本多 鋭孝 松山 純成 山内 由美子
<欠 席> 永山 慎二
<交流館> 近藤かおる（崇化館交流館長）
<事務局> 杉浦 智文（拳母事務所長）
田嶋 優俊（地域支援課担当長） 青木 剛（地域支援課主任主）

■次 第

- 1 開会 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 前回の振り返り
（1）地域課題解決事業について
- 4 課題候補の選定
（1）前回の意見の検討
- 5 連絡事項

■議 事（要約）

3 前回の振り返り

第4回地域会議で行った地域課題解決事業に関する説明内容の確認を行った。
内容は別紙のとおり。

4 課題候補の選定

第4回地域会議の発言を簡潔にまとめ報告。
課題候補の選定議論として改めて出席委員全員から個々の意見を伺った。
内容は別紙のとおり。

5 連絡事項

- ・ 11月30日に防災フェア計画しており、実施内容の概略についてコミュニティ会議から説明（プレゼン資料を説明）
伝えたいテーマは自助、コア・ターゲットは地域活動経験がない方、子育て世代、狙いは担い手の育成や避難所運営や復興の中心に若い力を活かす地域活動のきっかけづくり。崇化館地区各自治区の取組をお互い生かすために共有する。
ゴールは自助、自分の命を守ることにについて参加者の学びにつながると良い。
予定：①大洪水からの脱出、②家族みんなで避難所へ向かおう
③災害の専門家講演（愛知工業大学 横田先生）、④住民の意識啓発
⑤マイタイムライン、⑥非常持出袋、耐震化、補強等のPR 等

【前回の振り返り】

- ・地域会議と地域課題解決事業の関係、令和5年度の水害に対する提言と関連する事業実施中の事業と現在の地域会議との関係等についての前回の議論の概要を報告した。
- ・地域課題解決事業具体化の説明として、矢作川の堤防決壊を前提に避難所となる崇化館中学校を借りて防災キャンプを行うという事例を紹介した。
- ・今後も地域会議で出された意見に対し関連する事例を紹介するが、基本的にはまず提言にまとめていただくことが主でありその過程で事業紹介も適宜行っていく。
- ・今年は新たな課題の選定を1年かけてでもしっかり詰めていくという認識でもいい。
- ・計画をしっかり持つて行くことが大事。来年、再来年に向けて何か提案しないといけないと思うが令和5年度の提言が形として実現するのはいいことである。

【主な意見】

＜出席委員が認識している課題＞

会長 課題の選定としては良い面、悪い面色々と考えていただいて、共通のキーワードや、皆さんそれぞれの立場で意見があると思うのでまずはその意見を聞きたい。2つ目に意見を踏まえて今後の進め方を協議していく。

3つ目は協議を進めるうえでポイントを共有していつてはどうかと考える。

委員 高齢者の一人世帯が増加し誰も支える人がいなくなってきて自治区も支援をしているが、個人情報とか難しい部分がある。空き家の問題は、10年くらい放置されている家に小動物が住み着き通学路に小動物が出て学校から苦情が来ている。

委員 安永川のフェンスが在ったり無かったりだが市で対策してもらえるか。

委員 高齢化と人口減少が課題。子どもが楽しむ施設が少ない。子どもたちが集まって世代間交流できると子育て世代もこの町に住んでみようと思えるのではないかな。

委員 民生委員でも高齢者世帯に対しどこまで関与すべきかわからない。

委員 防災に取り組む理由は命のやり取りだから。堤防が決壊した時に2百や3百人死なせたら歴史に残る水害になる。そこに対して市役所がバスを用意して避難するとか考えていただけないか。平芝は防災に若い人も参加させる取り組みを進めており、40代、30代の方が夜の部を担当してくれるという回答が来ている。地域で力を合わせてという意味で防災はそれなりにテーマとなるのかなと思う。

委員 加茂家畜診療所に駐車場の避難所利用の相談をした際に市から申請があれば検討するかも知れないということだったので、やはり市が働きかけないと動かないことが多いのだなと感じた。今は女性も高齢者も働く人が多く自治区の担い手がいらない。担い手確保には自治区や民生委員の仕事を市が若い人たちの副業として広げていくのが大事なのかなと感じた。市が自治区に入らなくてもいいと言われるので入らないという方が多いらしい。自治区に入ることのメリットや自治区の役割を市がしっかりと話して下さって皆さんが入ることに意味があるのだなということ認識していただけるとありがたいと思う。

委員 東区はすべて水没する状況で、この10年の間に避難所の開設が2回あったが、市の防災対策課に聞くと避難者はいないということであった。避難しない状況についてどのように考えているのかということは一言も言及されない。崇化館6自

治区で防災訓練をやっているがお知らせを発信しても参加者は少ない。参加者が少ない、担い手も少ない中で水害に対しては一番危険な場所なのに今のところ

「崇化館中学校への避難」、それしかはつきりしたことがない。平芝では8割くらい避難ができそうと聞いているが自分の地区は3割程度だと思う。何か良い方法があったらこの機会に指導していただければありがたいと思う。

委員 マンションなど玄関にも入れてくれないのが今の状況。避難できても命が助かるというだけで2階辺りまで水没したらすぐに水は引かないし、避難してもトイレはないし水も飲めない。その時になれば応援はしてくれると思うが、このことについて市の防災対策課へ質問状を出したがいい話は無い。崇化館中学校は100世帯が避難すると100台車が必要であり歩こうとすれば30分位かかる。

委員 部活動の地域への移行という話が出ている。防災については中学生に対して災害の時に体育館はこういう役割を果たすということを知ってもらうことは防災教育の上で重要だと思う。ただ中学生を活用するとか頼ってもいけない部分があつてあくまで大人の助けとしての位置づけなのかなというふうに思う。

委員 今の高齢者はすごく元気で地域のイベントとかで活躍している方が多い。防災についても元気な高齢者も少しは役に立てると思う。今後も高齢化率は高くなるのだからもう少し高齢者の方を上手に活用することも考えていける地域にしたいと思う。

委員 公園で子供たちが遊んでいることにうるさいと苦情が出るという話だが、こうしたことに対して自治区としてどういう対応をすべきか。
市役所の方にお聞きしたいのだが水害で矢作川が氾濫した時に避難するのにバスを手配して避難する、その手段として例えば名鉄とかトヨタ自動車とかに対して何らかの協力依頼という働きかけはされているのかどうか。今までしたことがあるのか、全くないまま来ているのかお伺いしたい。

委員 自治区の高齢化という話は最近70歳過ぎても働かれる方も多くて自治区の役員の担い手がなくて困った状態である。自治区の役員はボランティアではないという人もいて、そのためには手当を払って協力を仰ぐべきではないかという意見も今年出てきたが没になった。そういう現状を今後どうしていったらよいのかというのが関わってきた区長としての課題である。

委員 小学校のPTAなので子どもに関することを言わせていただくが、親御さんのアンケートでは公園とか遊ぶところがないというのがある。近くだと草が多くて市にお願いすると春と秋に草刈りを行うが夏場は鬱蒼としていて小さい子が遊べない。樹木も大きくなりすぎて鬱蒼としているので防犯的にも遊ばせたくないし、蛇が出ると心配だという声が結構出ている。

長久手は住みやすいと言われていて公園がかなり整備されている。ボランティアで近くの人が草を取って、家の前に置いておけば市が持って行ってくれるので積極的に活動していただけたという環境がある。こうした環境があるともっと協力してあげるよと言う人が出てくるのではないかなと思う。

山間地域から中心部へ出てこられる方が何故出てくるかというと家に帰るのに7時頃のバスに乗らないと帰れない。だからバスに乗らない。だから利用者が減って本数は減るという悪循環がある。バスの便を考えれば利用者すると言う人結構みえたので考えていただきたい。

市役所の北側からでて道路を斜め横断する職員がかなりいる。昔苦情を出して無くなった時期があったが最近酷くなってきているので市役所という立場ですからモラルを持っていただけるとありがたい。

委員 ビッツ付近で交通立哨をすると横断歩道でないところを渡る市職員を見る。それと挨拶をしても返されない人が1割くらいいる。駅前のマクドナルドの辺りは禁煙エリアだと思うが吸殻が山のように落ちている。市役所前のバス停付近の側溝に土砂が堆積し木が生えているが市に整備を要望したら国道だから市はやりませんと言われた。側溝が小さいので繁茂しているところがあるがいつか掃除するのか。自治区の環境美化活動ではできない。

委員 水害対策はハザードマップが基になると思うが、想定がいつ時点のデータを基にしているのか、最近水害対策も進んでいると思うが、市としては水害対策が進んだからもう危険ではないといって浸水エリアから外すのはすごく怖いことだと思う。どこまで水害対策したとしても浸水するのかどうか私自身分からないし、仮に浸水するとしたら、地域レベルではなくて豊田市側からも本当にこんなに危険ですと言ってもらうような共働事業でないといけないのではないかなと思う。事業については、子どもの未来を考えたときに今自治区でやれることは例えば崇化館中学校という避難場所が中心にあるので3小学校が協力して崇化館中学校に子どもたちが中心になって自分のおじいちゃんおばあちゃんを連れて避難してみましようといったイベントもできるかもしれない。水害がどこまでのものなのか自分は懐疑的だが、他県とか他市から来たら中心市街地が浸水エリアなんて怖くて住めないと思う。7mも8mも浸水すると言われても自分たちは慣れてしまっていておかしい感覚になっているのかもしれない。この原因を考えると、今まで市がハード整備を行ってきたけれど本当に浸水してしまうのなら市がもっと慌てさせなければいけなくて自分たちが考える事業としたら市と共働して本当に危険なんだと知らせるというような事業をやらないといけないのではないかなと思う。

会長 水害であれば矢作川に大防波堤を作るとか、もう一つ矢作ダムを造れば我々は安心して住むことができるがそれを待っていたら千年に一度と言われているが最近異常気象が続くので水害は明日来るかもしれない。その対策を考えるのは命に係わることであり財産を守ることである。

課長 市は垂直避難ではなくて水平避難を推奨するというのは変わらない。ただし垂直避難は命を守る最後の手段として必要なもので今調整していますとお答えした通り。ただ実際、垂直避難した時に浸水した状態だと電気も水も使えないので非常に不便な状況で過ごすしかない必要な状況で行う。キャパの話は全員が崇化館へ入るわけがないということは承知をしており災害のときにどれだけスペースを確保していくかという現実的に全員をカバーするのは難しいと考えている。一方で崇化館が水没した時に豊田市全域が水没するわけではないので他の避難所との連携が大切になってくると考えている。

以上

《今後の予定》

●令和6年度 第6回崇化館地域会議

日 時：令和6年10月15日（火）午後6時30分～

場 所：崇化館交流館 4階 第2会議室